

事案名	浜名湖周辺の事案（静岡県22-1）
分類	廃棄・遺棄 発見・被災・掃海等処理 現在の状況
資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・証言（昭和48年調査）〔1〕</li> <li>・「連絡発第6605号 浜名湖に投棄した軍需品について」昭和25年1月19日〔2〕</li> <li>・「元飛行団所属隊員陳情書」平成元年7月〔3〕</li> <li>・『史跡が語る静岡の15年戦争』〔4〕</li> <li>・『中日新聞』平成15年7月15日〔5〕</li> <li>・証言〔6〕</li> <li>・証言〔7〕</li> <li>・『静岡新聞』昭和22年7月17日〔8〕</li> <li>・『朝日新聞』昭和47年5月30日〔9〕</li> <li>・「旧軍毒ガス弾等の全国調査結果報告（案）」資料3の2No.1〔10〕</li> <li>・証言〔11〕</li> <li>・「ドラム缶入り毒ガスについて」平成3年2月13日〔12〕</li> <li>・証言〔13〕</li> <li>・証言〔14〕</li> <li>・化学室担当者ノート「戦後における旧軍毒ガス弾等の処理の状況(14.6)」〔15〕</li> <li>・『静岡新聞』昭和27年7月17日〔16〕</li> <li>・『静岡新聞』昭和37年3月29日〔17〕</li> <li>・「『旧軍毒ガス弾等の全国調査』のフォローアップ調査結果について（報告）」平成15年9月26日〔18〕</li> <li>・証言（48年調査）〔19〕</li> </ul>
資料内容概要	<p>浜名湖とその周辺には、終戦時に、三方原陸軍教導飛行団（航空化学戦部隊）と第三陸軍航空技術研究所三方原出張所が保有していた毒ガス缶が廃棄された。戦後、毒ガス缶の発見や被災の事案が報告されている。昭和25年に浜名湖の掃海が行われ、イペリット缶約100本が引き揚げられて遠州灘に再投棄されたが、それ以降も同所では、発見及び被災が報告されている。</p> <p><b>廃棄・遺棄情報</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・元三方原陸軍教導飛行団防護隊長の証言によれば、終戦時に、三方原陸軍教導飛行団が保有していたイペリット缶80本（16トン）・ルイサイト缶20本（2トン）を浜名湖に投棄するように命令したと記載されている〔1〕。</li> <li>・終戦時に、三方原陸軍教導飛行団にはイペリット・ルイサイトが缶で4～5本存在しており、これを8月16日～17日に浜名湖に投棄した〔2〕。</li> </ul>

- ・元三方原陸軍教導飛行団関係者は、終戦時に、大型トラック 2 台分の中型ドラム缶（糜爛性ガス入り）を浜名湖の中央付近に投棄したと陳情書に記載している〔 3 〕。
- ・終戦時に、三方原陸軍教導飛行団は毒ガスを浜名湖北部、同飛行場の溝等に捨てたと記載されている〔 4 〕。
- ・証言によると、証言者（元第三陸軍航空技術研究所三方原出張所長）は、終戦時に、イペリット缶 1 本を旧引佐郡中川村（現細江町中川）またはその付近の地中に埋設したと思うと記載されている〔 19 〕。

#### 発見・被災・掃海処理等情報

- ・付近の住民の証言によれば、「昭和 20 年 8 月 15 日に、自宅北側の山（細江町）で 4 ～ 5 人が掘った穴にドラム缶をいくつか埋めている光景を目撃した。終戦時に、浜名湖の都田川河口付近に空のドラム缶が多数浮いているのを記憶している。ドラム缶の処分に困った陸軍が浜名湖に捨て、中身がある缶については山に埋めたのではないかと記載されている〔 5 〕。しかし、静岡県の聞き取り調査では「直接、毒ガスのドラム缶を埋設した事実は知らないが、当時その周辺の者からそういう話を聞いているだけで、埋設にかかわっていないし、その光景も見えていない」と、報道とは異なる証言が記載されている〔 6 〕。
- ・終戦後に、付近の住民が湖上に浮かんだ缶（イペリット・ルイサイトの缶）にふれて軽傷を負い、三方原陸軍教導飛行団残務整理部は治療費として 500 円を支払った〔 2 〕。
- ・元消防団長及びドラム缶を埋設した山林の所有者の証言によれば、昭和 21 年あるいは 22 年の 3 月～ 4 月頃に、三ヶ日町大崎半島に漂着した毒ガス入りと思われる黄色い帯が巻かれていたドラム缶を消防団約 10 人で運び、三ヶ日町大崎の山林に深さ 3.6 m の穴を掘って埋設したと記載されている〔 7 〕。
- ・元消防団長の証言によれば、昭和 22 年 7 月 16 日に、浜名湖に浮いていた缶を開けた兄弟 2 人が 7 月 22 日に死亡し、引き揚げられた毒ガス缶は当時の自治体警察の要請により、細江町気賀山中に横向きに埋設したと記載されている。なお、元消防団員の証言によれば、GHQ に埋設場所を教えたとし、後に GHQ が毒ガス缶を掘り起こし処分したという話を聞いたと記載されている〔 11 〕。
- ・昭和 22 年 7 月 15 日に、浜名湖に浮いていた毒ガス缶 1 個を漁師 2 名が船上で開け、イペリットにより数日後に死亡した〔 8 〕。同じ頃、付近の農民も浮いていた容器に触れて両手に水疱ができたと記載されている〔 9 〕。
- ・地元の漁師の証言では、終戦後に軍がドラム缶入りの毒ガス

を浜名湖に投棄し、浜名湖が荒れたり潮の関係で缶が岸に漂着するようになり、漂着した缶は三ヶ日の海岸に集めたが、被災者が出たので騒ぎが大きくなった。昭和22年3月から昭和25年にかけて掃海が行なわれ、異物にあると潜水夫が船に引揚げ、太平洋に投棄した。その量は全部で40～50本であったと思うと記載されている〔12〕。

- ・浜名湖の掃海を請け負った民間企業の元社員は、昭和25年に浜名湖からイペリット缶約100本を引き揚げて、遠州灘に再投棄したとしている〔9〕。
- ・証言によれば、証言者(元農民)は、昭和25年9月以降(浜名湖掃海後)に、旧軍の毒ガス入りと思われるドラム缶を、自衛隊員と思われる3～5名の人物が浜松市呉松町の松林内に埋設している現場を目撃した〔13〕。また、同証言者の弟は、遠州灘掃海後に館山寺の湖岸に打ち寄せられたドラム缶を目撃し、また、叔父(昭和20年に浜名湖へ投棄した従事者)から缶の埋めた場所を聞いたとしている〔14〕。
- ・昭和27年6月1日に、浜名湖でイペリット入りの缶1本により負傷者が出たと記載されている〔10〕〔15〕。
- ・昭和27年7月15日、館山寺北浜名湖岸にドラム缶1缶が漂着しているのが発見され、東浜名地区北庄内村派出所に届け出された。ドラム缶は、派出所が処理した〔16〕。
- ・昭和30年12月20日から22日にかけて、浜名湖でイペリット缶1個が発見されたと記載されている〔10〕〔15〕。
- ・元軍人が十王堂の境内にイペリット入り試験管10本を埋めたとの申し出を受けて昭和37年3月28日に自衛隊が搜索したが発見されなかった〔17〕
- ・昭和37年3月27日から28日にかけて、浜名湖で毒物容器2缶が発見されたと記載されている〔10〕〔15〕。
- ・昭和37年6月24日から29日にかけて、浜名湖周辺で毒物容器2缶が発見された〔10〕〔15〕。
- ・昭和38年6月21日に、浜名湖周辺でイペリット缶2本が発見されたと記載されている〔10〕〔15〕。

#### 現在の状況

- ・浜名湖は、単位面積あたりの漁獲量は全国有数を誇り、昔から潮干狩りや釣り等にも利用され、近年ではリゾートやマリンスポーツの場所として利用されている。三ヶ日町大崎半島・細江町気賀・館山寺大草山付近の井戸水からはヒ素は検出されなかった。三ヶ日町大崎半島・細江町気賀・館山寺大草山の山林は利用されていない〔18〕。